

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十五年十一月度 入選句（投稿総数三千二百六十六句・一般投句数八百九十六句）

特選

とんぼうに遠き日の指立てて見る

大垣市

永井 田鶴子

とんぼの眼は複眼で物の形・動きなどを素早く感知できると言われます。棒の先に止っていることが多いのは四方八方の敵や獲物に対処しやすいからでしょうか。そんな習性から指を立てていると、とんぼが止ってくれることを教えられた遠い日のこと思い出し指を立てて見ました。私が好きならこの指止めと……

赤とんぼ山重なりて暮れにけり

大垣市

宮脇 眞

夕ぐれの空に赤とんぼは、月並表現ですが、山が重なり合いながらくろくろと暮れて行くという風情は特に秋の夕暮れにふさわしい表現です。
夕焼け小焼けで日が暮れて、山のお寺の鐘が鳴る、お手々つないでみな帰ろ、烏もいつしよに帰りましよと唱った幼いころを思い起しています。

はしやぐ子の声響きゆくいわし雲

三重県多気郡

鶴田 恵利

いわし雲は高度が低く空一ぱいに張りつめると、巨大な自然のドームが出来たように思えます。大きな大きな音楽堂のようにです。子たちがはしやぐとその声か響き合つてこだまとなつてはね返ってくるような錯角に陥ることになるのです。そんな世界をこの句からふつと感じました。

秀逸

初もみじ俳句の径のたらい舟

滋賀県野洲市

三浦 忍

逆立ちをせしどの子にも草じらみ

大垣市

大西 誠一

ぶきつちよに竿を伸ばして柿を挽ぐ

大垣市

鶴田 信子

水澄むや水の底にも日のありて

大垣市

米山 方士

書を伏せて今日の灯を消す虫の闇

福井県福井市

三ツ山 ひろし

雑草といふ名のなくて草紅葉

大垣市

岡田 あや子

瓢箪の撫で回されて売れ残る

大垣市

大井 公夫

雨の日は雨の風情の枯木立

養老郡養老町

田中 秀子

響き合ふ二部合唱のもみぢかな

愛知県瀬戸市

田村 清美

地に落ちし木の実に影のありにけり

北海道小樽市

大橋 美彌

入選

秋高し曲がった腰をのばしをり	大垣市	浅野 亨
石段に腰かけている祭りの子	大垣市	川瀬 幸子
園児らの叫ぶ歓喜の諸畑	大垣市	喜田 守
恙なく暮れゆく一日菊の酒	大垣市	新町 恵子
かさこそと桜紅葉やむすびの地	大垣市	久保田 悟義
長き夜や己が余生は弥陀まかせ	大垣市	棚橋 昭子
山の日にひとつ灯りて木守柿	大垣市	佐藤 すみ子
秋深しすつきり見ゆる伊吹山	大垣市	森 芳昭
山彦の向ふの山も秋の山	大垣市	宮脇 眞
文化の日賞には縁のなき暮らし	大垣市	早崎 美弥子

入選

長き夜やあとは佳境の数ページ	大垣市	大井 公夫
苦舟に昨夜の雨あと蛤塚忌	大垣市	田辺 のり子
水清き秋の大垣たらい舟	愛知県名古屋市	佐々木 千洋子
障子貼る神も仏も一つ部屋	大垣市	矢橋 郁子
子らの来て戻りしあとの夜長かな	大垣市	久富 キヌエ
鉄瓶の湯たぎる音や冬座敷	大垣市	伊藤 有紀
流れ行く一枚の葉に秋思ふ	大垣市	佐竹 幸子
天高し伊吹の山の紫に	大垣市	佐竹 幸子
芋莖干す離れて暮らす母のこと	静岡県磐田市	田村 文男
日めくりも残り少なに柿すだれ	神奈川県藤沢市	門坂 螢

選者吟

稲雀山傾けてひるかへる

青 志